



更新検討中の発電所を見学、聞き取り

任意団体 市民エネルギーとっとり

鳥取県で実践されてきた地域共生の エネルギー利用を知り、伝え、 増やすための基盤づくり事業

入門助成

1年目

知識の提供・
普及啓発

シンポジウム参加者数 **70人**

地域共生のエネルギー利用
を推進する活動を担う人材

2人

活動の全体目標に
対する達成度

90%

課題

分散型の地域エネルギー基調社会への転換には地域住民の視点や参加が不可欠で、鳥取では住民主体の小水力発電が戦前戦後から営まれてきたが、この取組みは減少しつつある。

目標

●自然共生的な地域エネルギー活用の実践である鳥取の小水力発電の価値や意義を発信し、その維持、更新、新規導入を推進する。●先進事例や最新情報を学び、知見を鳥取で発信、共有するとともに人材を育成する。

活動内容

●県内小水力発電所へのアンケート、聞き取りを行い現状と課題を確認した。●先進地域を見学し、小水力発電、再エネをめぐる最新状況や知見を学ぶ研修等に参加し人材育成を行った。また、可能性地域の調査を行った。●フォーラム、意見交換会、自然共生のエネルギー利用と地域自治・まちづくりシンポジウムを開催し、鳥取で営まれるエネルギー自治の“実践”や先進地域の取組みを広く伝え、地域の主体間の交流を促進した。



小水力×まちづくりと地域
自治シンポジウム

達成できなかったこと

記録の集積を引き続き行い、その集約、保管、公表等については、当事者の方々と調整を進めており、貴重な資料が広く生かされるようとりまとめる。

今後の展望

実践者や関心を持つ方々、推進団体、行政、可能性のある地域の住民との交流や実施体制づくりを進める。

成果と工夫した ポイント



成果

- ・シンポジウムに予定以上の70名が参加し、歴史を再評価し、地域共生のエネルギー利用を推進する意義を広く共有し、賛同者を増やすことができた。
- ・地域共生エネルギーを推進する3つの団体と関係を構築。

工夫

地元の取組みや歴史から学ぶとともに、まちづくりや地域の自治につながる先進事例に注目して情報を発信。